

# 令和5年度 生命医科学域セミナーⅡ

**演題：肝胆膵腫瘍における分子病理・  
形態病理の新たな統合的パラダイム**

**演者：林 玲匡 先生**

**杏林大学医学部病理学教室・准教授**

**日時：令和6年2月29日(木) 15時～16時**

**会場：健康医科学イノベーション棟8階講堂**

## **要旨：**

肝胆膵領域の腫瘍は診断・治療技術の進歩した現在でも予後不良であり、肺癌などと比較し分子標的薬も限局的である。近年、テクノロジーの進歩を背景に病理研究の手法も変化し、古典的形態病理の意義も見直されつつある。私はこれまで肝胆膵領域の腫瘍における分子形態相関に着目し、研究を進めてきた。肝内胆管癌では、WHO分類（第4版）で一括りにされていた腫瘍組織分類に関して、臨床的、形態学的、分子遺伝学に異なるType 1、Type 2の亜型を提唱した。膵癌では、マルチサンプリング法で得られたサンプルの形態学的評価、網羅的遺伝子変異解析、遺伝子発現解析の結果を統合的に解析することで、扁平上皮分化に伴い発現サブタイプが変動し得ること、MYCの増幅やクロマチン修飾関連遺伝子の変異がその分子遺伝学的背景として重要であることを示した。現在進めている剖検凍結組織や病理組織ブロックを用いたシングルセルレベルの解析も含め、肝胆膵領域腫瘍研究における病理学的視点の重要性について述べる。